

『美術館のコレクション』2004年度第2期展示

2004年6月30日[水]－9月26日[日]

『美術館のコレクション』第2期は、第1室「近現代の絵画」、第2室「月僊とその時代」、第3室「彫刻家の素描と作品」という内容です。第2室では月僊を中心に、曾我蕭白、増山雪斎など三重ゆかりの江戸時代の絵画を展示します。第3室は、画家とはことなる彫刻家固有のものとのらえ方が浮かびあがりはしないか、という問いのもとに立案されました。

以上に比べると「近現代の絵画」とは、ずいぶん大ざっぱなタイトルとの印象を受けるかもしれません。内容も、近代以降の日本および西欧の作品で構成するというものです。この大ざっぱさには、しかし、理由がないわけではないのです。会期中企画展示室と県民ギャラリーでは所蔵品による『ステキな視界・新たな世界』展が催されますし、9月から10月にかけては、横浜そごう美術館で岡田文化財団寄贈作品による展覧会が予定されています。この両展と重ならないよう作品を選ばなければならないわけです。

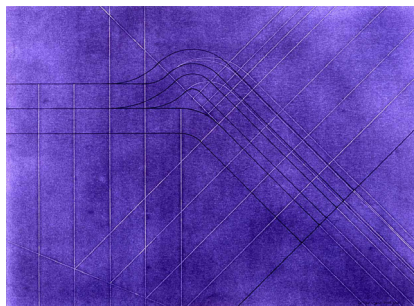
もちろん、よその展覧会に出品するため作品が館をあけることは珍しくありませんし、これまでも企画展示室や県民ギャラリーで所蔵品による特別展示は開かれてきました。いかんせんその間の『美術館のコレクション』は、「落ち穂拾い」(第2期展示の担当者のことばです)の様相を呈さざるをえません。それにしあって『ステキな視界・新たな世界』は企画展示室と県民ギャラリー両方を使うのだし、それらと常設通して一まとまりならまだしも(昨年度の『再会!』展のように)、別にテーマを設けるのはなかなかきつい。かなりきつい。とてもきつい。だからあんな大ざっぱになったというのでした。

とはいえこれは裏事情にすぎず、観る側が気にかける必要は毛ほどもありません。展示では作品とその並びだけが勝負にほかなりません。担当者の泣き言になど耳を貸さず、とくと目を凝らすことといたしましょう。

(lk)



月僊《蘭亭曲水図》1806(文化3年)



清水九兵衛《過程IV》1992(平成4年)